

### 足部・足関節のスポーツ外傷と障害

スポーツ活動では、しばしば外傷やオーバーユースによる傷害が起こる。足関節では、外側靭帯損傷が多く保存療法が標準的治療とされてきたが、10-20%の患者には足関節や距骨下関節の不安定性、関節の疼痛が残り、受傷前のパフォーマンスまで回復できていない。特に距骨下関節の不安定性による障害はストレスX線写真では診断に苦慮することが多く、足関節底屈位での回内外旋ストレステストが有用である。不安定性の有無や遺残靭帯の状態は、超音波画像での診断が有用で、手術では鏡視下縫合術や再建術が行われるようになって来た。

距骨骨軟骨傷害は、足関節靭帯損傷と合併して起こることが多いが、早期であれば良好な骨癒合が期待できる。陳旧化した場合は、鏡視下の骨髄刺激術や骨軟骨移植術が行われているが、課題も少なくない。

腓骨筋腱脱臼では、鏡視下に行う腱鞘再建術が良好な成績をあげており、openでの修復術の前に行って欲しい術式であり、紹介したい。

リスフラン靭帯損傷には、各種のアンカーが開発され、Kワイヤーでの固定や、関節固定術より低侵襲で確実な固定ができるようになって来た。スポーツでの受傷例には、まず試みて良い方法である。

早期復帰と低侵襲を目指す鏡視下手術と、早期リハを中心に講演を予定している。